

殖民軌道斜里線

殖民軌道斜里線は1932（昭和7）年に斜里～知布泊間（17.9km）が開通した馬車鉄道である。沿線の農林水産物の運搬や開拓農家への物資供給の動脈として、地域開拓に重要な役割を果たした。第2次世界大戦中に酷使され荒廃し、道路の開通や自動車の普及などもあり、1951（昭和26）年に廃止された。

知床博物館の常設展示室において、糠真布川を渡る殖民軌道の写真を展示している。



殖民軌道斜里線の客トロ



糠真布川を渡る殖民軌道（1932年）

トピックス●連休は開館、月曜日のみ休館です●ご利用下さい●4/22衰弱した白鳥が保護されましたが、残念ながら2日後に死亡●北帰行の季節、無事を祈ります●野鳥のさえずりが賑やかになって来ました●葉が繁る前の今が姿を見るチャンス！●会員の皆様には、あかしのぶごさんの絵はがき「エゾシカの親子」を同封しました●彼女の最新絵本が入荷（380円）●なお、前作モンガの絵本は完売です●15年間、博物館に勤務していた久光さんが3月で退職されました●長い間ありがとうございました●4月からは埋蔵文化財センターに勤務しています●新しい女性スタッフが入りました●旭川出身の島田さんは、野付のネイチャーセンターに勤務していました●次号からタンネウシを担当します●バイクが趣味の行動派です●Uターンの山田さんは英文科卒なので、外国のお客様が来ても大丈夫●旅行会社の窓口の経験が有り、電話対応もさすが～です●即戦力の二人です●よろしく願いいたします●6/4植物の観察会あります●詳細次号で。（ひら）



発行 斜里町立知床博物館協力会 2006.4.25

099-4113北海道斜里郡斜里町本町49

斜里町立知床博物館内

TEL:0152-23-1256 FAX:0152-23-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>

殖民軌道の廃止後、各種の備品やレールなどは払い下げられ、各種用途に用いられた。その一部は町内に現存し、軌道のおもかげに触れることができる。

峰浜小学校のバックネットの柱として殖民軌道のレールが使われている。建設時期は不明であるが、聞き取りによると1965（昭和40）年頃にはすでにあったと言われている。レールとして使われなくなってから40年以上この場所に立ち、峰浜小学校の子どもたちの成長をハルニレの大木とともに見つめている。

（宮内盛一）



峰浜小学校のバックネットに使われている殖民軌道のレール

宮内盛一

知床博物館研修生。斜里町立峰浜小学校教諭。教員長期社会体験研修により2007年3月まで1年間の研修中。北海道教育大学釧路校教育学研究科修士課程で、産業と斜里市街地の発達を事例とした鉄道輸送の歴史的変遷について研究。殖民軌道斜里線、根北線など斜里町の鉄道交通関係史・学校史について調査中。峰浜小学校WEB担当も。



新刊書紹介

「世界自然遺産・知床とイエローストーン」
デール・R・マッカロー、梶光一、山中正実編著
B5判315ページ 発行：知床財団 定価2,000円

昨年8月に札幌で開催された第9回国際哺乳類学会議の中で合同シンポジウム「知床・イエローストーン 野生をめぐる2つの国立公園の物語」が開催されました。この本はシンポジウムに参加した両国立公園の研究者（知床11名、イエローストーン14名）の執筆によるものです。両国立公園の野生動物と保護管理の現状を比較し、国立公園そして世界遺産として歴史の古いイエローストーンの経験を知床の今後の保護に生かそうとする内容です。和文と英文の2部構成になっていますが図版や写真も豊富です。博物館窓口のほか通信販売でお求め下さい。

